

● 研究演題 5

健診受診回数と、生活習慣、メタボリックシンドローム及び高血圧との関係

群馬大学大学院パブリックヘルス学環 修士1年 木村郁也

【目的】

健診受診回数が、生活習慣やメタボリックシンドローム (MetS) 及び高血圧症に与える影響を明らかにすること。

【方法】

群馬県の国民健康保険の 2020 年の特定健康診査データを用いた横断的研究にて評価を行なった。2015 年及び 2020 年に受診している人を対象にし、期間中の健診受診回数により、2-6 回の 5 群に分けた。MetS の該当は、国民健康・栄養調査の基準により定義した。高血圧症の該当は、WHO の基準により定義した。生活習慣行動は、標準的な質問票から 10 項目の質問を採用し、リスク有りの回答を 1 点とした最大 10 点のスコアを、生活習慣スコアとして定義した。

まず、健診受診回数群で生活習慣スコアに差があるか調べるため、分散分析と事後分析を行った。次に、2020 年の MetS または高血圧症の該当の有無を目的変数、健診受診回数を説明変数とし、年齢と性別を調整因子としたロジスティック回帰分析を行なった。統計学的有意水準は 0.05 とし、全ての分析に Python3 を用いた。本研究は所属大学の倫理委員会の承認(HS2023-137)を得て実施した。

【結果】

生活習慣スコアについて、MetS 及び高血圧症の両方とも健診受診回数が多いほど生活習慣スコアは低かった。分散分析と事後検定の結果、健診受診回数 2 回と 3 回の群間以外の全ての群間で健診受診回数が多いほど生活習慣スコアは有意に低かった。健診受診回数 2 回の群と比較したロジスティック回帰分析の結果、MetS 及び高血圧症の両方において健診受診回数 6 回の群で、オッズ比が有意に低かった。

【考察】

毎年健診を受診している人ほど生活習慣が良好であり、MetS 及び高血圧症の該当率も低かった。毎年健診を受けることで健診の効果が期待される可能性がある。従って、毎年健診を受診し、その結果をもとに生活習慣の改善を行うことが重要である。

表 1 健診受診回数と MetS 該当率

健診受診回数	n数	MetS該当数	該当率 (%)
2 回	569	115	20.2
3 回	1,323	266	20.1
4 回	2,662	500	18.8
5 回	7,303	1,398	19.1
6 回	43,334	7,551	17.4

表 2 健診受診回数と高血圧症該当率

健診受診回数	n数	高血圧症該当数	該当率 (%)
2 回	569	320	56.2
3 回	1,326	800	60.0
4 回	2,666	1,526	57.2
5 回	7,317	4,058	56.6
6 回	43,389	24,901	57.4

表 3 MetS 該当のロジスティック回帰分析

健診受診回数	OR	P値	95%信頼区間	
			下限	上限
2	reference			
3	0.94	0.628	0.73	1.21
4	0.88	0.28	0.70	1.11
5	0.87	0.224	0.70	1.09
6	0.76	<0.05	0.62	0.94

表 4 高血圧該当のロジスティック回帰分析

健診受診回数	OR	P値	95%信頼区間	
			上限	下限
2	reference			
3	1.06	0.596	0.86	1.30
4	0.92	0.381	0.76	1.11
5	0.86	0.093	0.72	1.03
6	0.83	<0.05	0.70	0.99